

自ら学ぶ児童の育成

複式指導における言語活動の充実

～言葉を意識した学び合いを通して～

鮫川村立青生野小学校 (代表) 校長 遠藤 真由美 教諭 池田 陽子

1 研究の趣旨

今日「知識基盤社会」を担う子どもたちに求められているのは、「生きる力」である。学習指導要領では、「生きる力」の育成のために、知・徳・体のバランスとともに、基礎的・基本的な知識・技能、柔軟な思考力・判断力・表現力等、及び学習意欲を重視している。本校では、平成23年度から3年間、継続研究として「自ら学ぶ児童の育成」の主題のもと、実践研究に取り組んできた。本年度は、その3年次目として1・2年次の成果をベースに「確かな学力」、特に思考力・判断力・表現力を高めさせたいと考えた。そのためには、「言語活動の充実」が欠かせない。複式という限られた指導体制の中で、言葉を意識し学び合える言語活動を充実させ、本研究主題に迫っていきたいと考えた。

言語力を支える基盤作りを大切にし、国語科の指導において、基礎的・基本的な知識・技能を明確化し、言葉を意識し学び合う言語活動、複式指導における効果的な展開を工夫すれば、「学習すべきことをとらえて、意欲的に学習に向かう姿」「既習や経験を生かしながら課題を解決する姿」「自分の考えをもち、友だちと学びあう姿」の子どもを育成することができるであろう。

2 研究の概要

(1)研究内容

- ① 言語力を支える基盤作り
- ② 基礎的・基本的な知識・技能の明確化
- ③ 言葉を意識し学び合う言語活動の工夫
- ④ 複式指導における展開の工夫

(2)研究方法

- ① 教育活動全般における実践研究
 - 暗唱・音読の実践 ○ 読書に関する実践 ○ 表現力をはぐくむ実践
- ② 授業を通しての実践研究（検証順）
 - 5, 6年複式の実践 ○ 3, 4年複式の実践 ○ 1, 2年複式の実践

3 成果と今後の課題

(1)言語力を支える基盤作り

詩、俳句、古文など、あらゆる分野の教材を継続使用した暗唱活動は、児童が達成感や成就感を味わうことができ、意欲的に学習に向かうのに効果的であった。また、朝の読書タイム、読み聞かせ、家読は、授業で学んだ読みを生かした読書の楽しさに気づくことができ、既習や経験を生かしながら課題を解決するのに有効であった。さらに、表現集会の定期開催での発表や感想交流が、児童の話す・聞く力を向上させ、より理想的な発表へ近づこうとする意欲を高めることが明らかとなった。今後は、疑問に思った言葉は自ら辞書で調べるなど、語彙力を伸ばす学習活動にもつなげたい。

(2)基礎的・基本的な知識・技能の明確化

単元プラン凝縮シート（出典：福島県教育センター）を活用し、児童に身につけさせたい力をおさえ、指導事項を重点化することで基礎的・基本的な知識・技能の明確化が図られ、児童自らが目的意識をもち、言葉を意識して学び合うことにつながることが分かった。

(3)言葉を意識し学び合う言語活動の工夫

複数文章の比較、既習と新出の活動の比較、記入しやすいカードの掲示などの手立ては、児童の思考に寄り添い、既習や経験を生かしながら課題を解決するのに有効であることが分かった。

(4)複式指導における展開の工夫

ガイド学習の内容改善と、単元を通してのわたりとずらしの組み合わせの工夫は、複式指導には不可欠である。担任が間接指導と直接指導をうまく組み合わせながら児童の活動を的確に見取れるよう、今後も更なる工夫を検討する必要がある。